

うれし恥ずかし
青春「食農」小説

自炊男子「人生で大切なこと」が見つかる物語

佐藤剛史 著

現代書林／1,400円+税

九州大学大学院農学研究院助教の佐藤さんは、とてもパワフルな人です。マイクを握れば食についての熱い思いを語って話題は尽きず、聴いている人たちをその気にさせるのがまた呆れるほどうまい。そんなサービス精神旺盛なゴーシさんが初めて挑戦した小説が、面白くないわけがありません。

主人公は、著者の分身とおぼしき大学生のイケベ君。学食とコンビニに支えられていた食生活から、彼女の気をひこうと料理にめざめ、ご飯一杯が20円ちょっとしかかからないとわかってからは、食費を浮かすことのできる自炊にせっせといそしむようになります。そのうちに、ふとした出会いで訪ねた有機農家の田んぼで汗を流して――

うれし恥ずかしの青春小説の中に、著者がこれまで出会ってきた、食や農の実践家たちの含蓄のある言葉や誇りある姿、そして食べることを大切にしている人々の思いがちりばめられています。食や農に関心がない人にも手にとっていただけるように、という著者の目論見は、たぶん成功しているでしょう。とくに若い人に読んでいただきたい、元気が出る本です。

